



Jichi 地域連携ニュース

- ・“声を残して生存率100%”を目指して …… 金澤 丈治
- ・ハローワーク宇都宮による治療と
仕事の両立に関する相談会について
- ・自治医科大学附属病院医師同門会について
- ・FAXによる患者様紹介について

“声を残して生存率100%”を目指して

耳鼻咽喉科 教授 金澤 丈治



皆様、こんにちは。私が専門としている喉頭機能外科は、喉頭癌や咽頭癌に対する機能温存型の治療を実践するとともに、近年、需要が高まっている音声障害や嚥下障害に対応しています。このような試みにより地域におけるコミュニケーション障害の改善や誤嚥性肺炎の防止による健康長寿社会の構築に貢献していきたいと思っております。今回、附属病院耳鼻咽喉科・喉頭機能外科教授を拝命し、約1年半が経過致しました。この機会に、ご挨拶申し上げますとともに現状に関してご報告できればと思います。

私は、福島県の海の近くの出身ですが、生来の海好きのためか琉球大学に進学、1992年に卒業し、初期研修が終了した1994年に自治医科大学に参りました。この間、母校に戻っていた2年間、海外留学期間および国際医療福祉大学に在籍していた期間を除くと医師としての殆どの期間を自治医科大学および地域支援で過ごしてきたこととなります。大学病院では、ジュニアレジデントとして入職以来、耳鼻咽喉科領域全般の研究を行うとともに頭頸部癌治療をサブスペシャリティとして参りました。また、大学院では遺伝子治療の研究を行うとともに米国ミシガン大学では約3年間細胞生物学の研究もしておりました。このように、私は、基礎研究に専従した期間も長いことから研究志向型の臨床ができるアカデミックサーजनを現在も目指しています。

耳鼻咽喉科はもとより、聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚、嚥下機能、音声機能など人間の生存に必須な領域を取り扱う魅力的な診療科です。私は、自治医科大学のミッションである“地域での耳鼻咽喉科診療の発展”に対する思いが強く地域医療支援も行いましたが、大学病院では、境界領域を含めた上縦隔郭清から頭蓋底手術までの手術を積極的に行っていました。局所進行頭頸部癌に対する手術の難易度は高く術者は限定されます。しかしながら、放射線や抗癌剤よりも手術の方が根治率、機能温存とも優れている症例が多数存在し、安全で確実な術式が望まれます。私は、局所進行癌に対する内視鏡下経口的喉頭機能温存手術に加え、下顎骨の保存や咽頭側粘膜の保護のために、頸部外切開の際にも口腔側からの視野を重視しています。これにより術後の合併症も少なくなり、安全な摘出が可能となりました。

この一方、研究による新たな医療の創造は大学の大きな役割です。最近の頭頸部癌治療の進歩はめざましく治療成績も年々向上しております。当科では世界標準の癌治療を提供していると自負しておりますが、これに加え、“声を残して生存率100%”を目標に独自の研究テーマを設けて治療成績の更なる向上を目指しております。具体的な研究テーマであるDNAメチル化解析では頭頸部癌において多数のG蛋白共有受容体のプロモーター領域を解析し、ここのDNAメチル化の頻度が高い症例ほど放射線や化学療法に抵抗性であり、生存率が有意に低くなることを明らかにして参りました。また、脱メチル化により遺伝子の再発現が起こり頭頸部癌細胞の増殖が抑制されることも確認しています。更に、頭頸部癌遺伝子治療では、アデノ随伴ウイルスベクターを用いて頭頸部癌細胞に初めて外来遺伝子を導入した実績を持っています。アデノ随伴ウイルスベクターは、遺伝子治療の領域で最も注目されているウイルスベクターであり、今後の頭頸部癌治療への応用が期待されます。その他、養子免疫治療そしてヒト乳頭腫ウイルス感染による頭頸部癌治療層別化などの研究も行っており、研究成果を早期に患者さんに還元できるよう努力しております。

このような癌の生存率を高める研究の一方で、声そのものの治療や研究も行っています。人間にとって声は重要なコミュニケーションツールです。医学を含む科学の発展もその多くを声に依存しています。また、通常の会話だけではなく歌唱や演芸などを通して文化性を高め私達の生活を豊かにしています。声は、ご存じのように喉頭（いわゆるノドボトケ）の中にある声帯でつくられますが、声帯は筋肉の土台の上にゼラチン質のような軟膜固有層が乗り、ここにぬめぬめとした粘膜がこれを覆うという特殊な構造をしています。声は、この粘膜固有層と粘膜が呼気により効率よく振動することにより生じます。声帯は、わずか2枚の声帯で様々な大きさ、高さの音を創り出すことができる優れた楽器です。しかしながら、声帯の楽器としての進歩は、ほぼ限界に達しているともいわれており、様々な“声の病気”が生じます。代表的なものを挙げると、声帯ポリープ、声帯結節、声帯麻痺、けいれん性発声障害および喉頭癌があります。ご存じのように、声帯ポリープや声帯結節は声の濫用により生じますが、興味深いことに、声の使い方により病変も異なります。Professional voice userの声帯を観察すると、声優は最も障害が大きく、落語家なども声帯の障害が大きい様に思います。理由は良くわかりませんが、自分の本来の声とは異なる高さの声を出しているためかもしれません。この一方、職業歌手でも長唄などの古典芸能とクラシック歌手やロック歌手では発声法が明らかに異なります。声帯に対する負担は古典芸能の方が強い印象ですが、クラシック歌手とロック歌手でも声帯結節の発生部位が異なります。こちらは裏声と地声の使い分けが関連しているのかもしれませんが。また、先天的な声帯粘膜欠損を独自の発声法でうまく利用して個性的な高音をつくりだす歌手などもいて声の面白さを感じます。このようなProfessional voice userの音声障害以外にも、頭頸部癌はもとより食道癌、肺癌、胸部大動脈瘤により生じる声帯麻痺の治療（QRコードを参照してください）や高齢者に生じる声帯委縮症の治療も得意としています。特に、超高齢化社会である現在、嗄声や誤嚥といった高齢者の音声障害は重要な社会問題になっています。私達は、これらの改善のために線維芽細胞増殖因子を用いた声帯内注入療法を全国に先駆けて行い音声機能の良好な治療成績を認めています。喉頭のもう一つの機能である嚥下機能の改善にも結び付けたいのですが、未だ十分ではありません。今後は、高齢者嚥下機能の更なる改善を目指して遺伝子治療の技術を応用して参りたいと思います。耳鼻咽喉科全般について、このような斬新な医療技術の創造が地域の皆様の豊かな生活の一助となることが私の望みです。

更に、医育機関の指導医として若手医師のための教育型臨床の実践と臨床技術の伝授も私達の大切な役割です。このため難聴、鼻副鼻腔、喉頭、頭頸部癌などの全領域で専門家の育成を進めています。自治医科大学は、ポストも多く優れた人材と整った環境に恵まれた施設です。教育機関としての大学病院の魅力は、高度な最先端医療を習得できること以外に、基礎研究を通して医学知識を深めることができること、国際学会や留学の機会などを通して海外の研究施設とも交流できることがあります。お陰で私も基礎研究に専念した時期や留学した時期を持つことができました。この間に会得した論理的な考え方は、その後の臨床技術の取得に大いに役立っております。優れた研究者は優れた臨床家でもあります。私達の教室がアカデミックサーजनと呼ばれるリサーチマインドを持ち常に一步先を考えながら上手な手術が出来る外科医になるための修練の場所になってくれればと思っています。

最後になりましたが、私達の耳鼻咽喉科学講座は未だ発展途上にあります。引き続き皆様のご指導・ご鞭撻を宜しくお願いいたします。



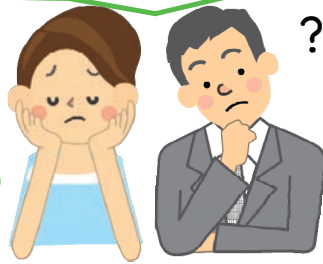
医局集合写真

治療をしながら働きたい、 働き続けたい方へ

治療と仕事の両立の仕方について教えてほしい！

通院しながら働きたい！

仕事復帰の不安を解消したい！



自分の病状にあった
仕事を見つけたい！

就職活動で、会社に
病気のことを伝える
べきか迷っている。

～治療と仕事の両立に関する相談会～

在職中・休職中の方

両立支援促進員
(栃木産業保健総合支援センター)
による相談会

◇日 時：毎月第2水曜日
10:00～13:00

(再)求職中の方

就労ナビゲーター
(ハローワーク宇都宮)
による相談会

◇日 時：毎月第2水曜日
13:30～15:30

院内で相談が受けられます！
事前のご予約を！

◇方 法：完全予約制*相談希望月の第1火曜日17時までにお申し込み下さい

◇費 用：無料

◇その他：*疾患の種類・県内外住所地は問いません。

*匿名でのご相談もお受けしております。

◇相談実施場所（自治医科大学附属病院内）

患者サポートセンター医療福祉相談室

◇予約連絡先 0285-58-7107（直通）

◇実施機関連絡先

栃木労働局 ハローワーク宇都宮 専門援助部門 電話028-638-0369 部門コード#45

独立行政法人 労働者健康安全機構 栃木産業保健総合支援センター 電話028-643-0685

◇後援：自治医科大学附属病院 患者サポートセンター



自治医科大学附属病院医師同門会について

当病院では、OB医師を中心に「自治医科大学附属病院医師同門会」を組織し、総会・懇親会の開催や会報の発行等を行っております。

入会の条件は、「①自治医科大学附属病院で、医師・歯科医師として勤務経験があること、②同会の趣旨に賛同していただくこと」の2点のみです。会費は3年間で1万円です。

これを機会に是非入会をお勧めいたしますとともに、皆様方の周囲に当病院OB医師がおられるときは、当会の存在をご案内くださいますようお願いいたします。

入会に関する連絡・照会先は次のとおりです。

自治医科大学附属病院 医師同門会事務局（地域医療連携室内）担当：松本恵美子、渡辺秀男
TEL 0285-58-7463・0285-58-7461 / FAX 0285-44-5397 / e-mail byoushin3@jichi.ac.jp

FAXによる患者様紹介について

当院では、FAXにより患者様の事前予約を行っております。事前にカルテの作成等事務手続きを済ませておくため、受診当日の患者様の事務手続きにおける待ち時間が短縮されます。是非ご利用いただけますようご案内いたします。

FAX 事前予約受付（休診日を除く）月曜日から金曜日まで 午前9時～午後3時

受付時間外にお送りいただいた申込書の対応は翌受付時間内での対応となります。

－ご注意－

- ◆ 医療機関以外（患者様本人等）からの予約受付は行っておりません。
- ◆ 受診当日の予約、および時間予約は行っておりません。
- ◆ 予約を変更（又は取消）される場合は、事前に紹介元医療機関から地域医療連携室までご連絡ください。

< FAX 予約のご利用方法 >

1. 「FAX 診療予約申込書」を作成し、当院あてにFAX送信してください。FAX 診療予約申込書は、当院のホームページ（<http://www.jichi.ac.jp/hospital/>）よりダウンロードできます。
※小児外科は「紹介状（診療情報提供書）」を併せてFAXしてください。
2. 当院では予約をお取りし、「FAX 診療予約申込書」を返信します。
3. 患者様に「紹介状（診療情報提供書）」と「FAXによる診療予約票」をお渡しください。
4. 来院日には、「紹介状（診療情報提供書）」と健康保険証を持参し、医事課・FAX 紹介状提示窓口に提示するようご案内をしてください。

